新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第82号

§ 平成 27 年度愛鳥講演会　　テーマは「フクロウ」 §

平成 27 年 11 月 23 日（月・祝）に新潟県立生涯学習推進センター1 階ホールにおいて、愛鳥講演会を開催しました。参加者は 96 名（内講師 3 名）でした。昨年度より参加者の利便性を考慮して、会場を県立生涯学習推進センターに変更しました。今年度はさらに落ち着いて講演を聞いていただけるようホールでの開催としました。今年度のテーマは「フクロウ」です。野鳥の中でも知名度が高く人気がある「フクロウ」についてお三方から講演していただきました。

はじめに、日本野鳥の会新潟県副会長の岡田成弘氏より「新潟県に生息するフクロウ類の生態と環境」と題して県内で見られるフクロウ類に関して講演いただきました。県内の豊かな自然環境の紹介から、多くの野鳥が見られることをお話していただきました。その中で県内では 7 種類のフクロウ類について記録があり、その内の 6 種類について紹介していただきました。主に山地で見られるフクロウや市街地でも見られるようになったトラフズクなど、フクロウ類が里山から市街地にかけて生息していること、厳冬期でも巧みに越後平野の中で生活していることなどを詳しく解説していただきました。夜行性で撮影の難しいフクロウ類ですが、岡田氏は鮮明な素晴らしい写真の数々で会場に感銘を与えてくださいました。

つづいて、県立鳥屋野潟公園管理事務所（女池・鐘木）パークコーディネーターの浅野涼太氏に「鳥屋野潟に生息するトラフズクの生態」と題して、会場でもある鳥屋野潟で見られるトラフズクについて紹介していただきました。国内の地域によっては夏か冬の限られた時期にしか見られないトラフズクが、鳥屋野潟では 1 年を通じて観察することができることに触れ、市街地にも面している鳥屋野潟でどのように生活しているのか紹介していただきました。その中で、トラフズクがネズミ類に限らず、コウモリの仲間や小鳥、昆虫なども食べていることを紹介していただき、都市部のトラフズクが公園とその周辺で多種多様な餌生物を捕食していることを詳しく解説していただきました。時にはユニークな解説も織り交ぜ、会場を沸かせてくださいました。

講演の最後は、新潟県野鳥愛護会副会長の山田清氏より「フクロウ類 5 種の生息状況調査の結果から」と題して、県内で実施されたフクロウ調査の結果を紹介していただきました。2 年間の調査によって、県内のフクロウ類がどのように分布しているのか概ね整理できた成果について詳しく解説していただき、多くの地域でフクロウの仲間が確認されていることがわかりました。

おわりに、新潟県野鳥愛護会長の渡辺央氏に閉会のあいさつをしていただきました。「夜行性のフクロウを観察することは非常に大変な作業だったと思います。わかりやすく、しかもきれいに撮影された写真とともにフクロウ類の生態や記録を発表していただいてとても素晴らしい講演だったと思います。」と講演者を労っていただきました。

講演会終了時に参加者から提出していただいたアンケート結果や今後の情報収集を参考に、皆さんが高い関心を持っている野鳥をテーマに次年度も講演会を開催していきます。ご期待ください！

§　傷病鳥保護と感染症予防　§　　所長　　西脇　憲治

愛読者の方々におかれましては、日頃から鳥獣保護活動にご理解をいただいており、中には傷病鳥の保護に携われた方々も多くおられることと思います。御協力に御礼申し上げます。

冬になると野鳥の高病原性鳥インフルエンザの情報が多く報じられるようになります。しかし、鳥由来の感染症は高病原性鳥インフルエンザだけでなく、様々な感染症があることをご存じでしょうか。身近に聞かれる感染症としてはサルモネラ症やカンピロバクター症があげられます。多くの鳥の糞便中に検出され、食中毒菌としてもご存じかと思います。また、オウム病も、風邪様症状で、診断が遅れたりした場合、重症化し死に至ることがある怖い病気として知られています。

まだまだ鳥由来感染症は多く存在します。

このように傷病鳥と接触する場合、様々な鳥由来感染症の感染リスクがつきまとうことになると思われます。

今回、簡単ではありますが、傷病鳥保護における感染予防の基本的対策として

1　マスク等の着用
2　使い捨て手袋等（ない場合はビニール袋等を代用）の着用
3　作業後の手指消毒、うがい励行
4　専用収容容器の確保

これらを実施されることをおすすめします。

また、高病原性鳥インフルエンザ等を警戒される場合は「防護服着用による作業と作業後の脱着、収容」が望まれますが、無理な保護は避け、担当地域機関（各地域振興局健康福祉（環境）部　鳥獣担当）へご相談ください。

過度に不安になる必要はありませんが、このように野生鳥獣との接触は常に感染のリスクがあることを認識され、御協力いただければ幸いです。

§「もし自分が鳥だったら！？」モデル校で「愛鳥集会」を行いました　§

10 月 19 日に新発田市立藤塚小学校体育館で愛鳥集会を行いました。春は探鳥会を行いましたが、秋は座学で野鳥について学習を行いました。

指導員の齋藤敏郎氏から「もし自分が鳥だったらどんなところに住みたいですか？」との問いかけを受け、児童は「食べ物が多い、水や空気がきれいなところ」と答えていました。そして、野鳥は自然環境のバロメーターであることを気づかせ、野鳥の住める環境を守ることは、人の暮らしを守ることにつながることを教えてくれました。野鳥の渡りについても、「なぜ渡ってくるか」と問いかけ、季節、気候、食べ物に関係があることに気づかせ、新潟県は夏鳥にとっては繁殖地、冬鳥にとっては越冬地、旅鳥にとっては中継地であると教えてくれました。

春と秋の 2 回の愛鳥集会に参加した藤塚小学校の児童には新発田地域振興局環境センターから「認定証」が手渡されました。最後に児童から「もっと自然を大切にしようと思いました。」、「自然が大切だということを忘れないよう鳥を見るようにしたい。」などの感想をいただきました。

学習の様子

標本に興味津々！

§　インターンシップ実習生と職場体験の生徒が業務を体験しました　§

8 月 26 日～27 日の 2 日間、新潟大学よりインターンシップ実習生が 1 名、また 9 月 24 日～25 日の 2 日間、紫雲寺中学校より 2 名の生徒が職場体験に来てくれました。実習内容は、飼育舎の清掃と餌やり、また愛鳥センター前にある巣箱の掃除やイベント情報発送作業など愛鳥センターで日々行っている作業を体験してもらいました。インターンシップ実習生、職場体験の生徒はどの仕事も積極的にまじめに取り組んでくれ、傷病鳥獣の収容現場なども見てもらい、普段出来ない経験をしてもらえたと思います。

「2 日間ととても短い期間でしたが、大型の鳥類を間近で見ることができたり、探鳥路でフクロウを肉眼で見ることができたりと、とても貴重な経験をさせていただくことができました。」、「自分の仕事に責任を持つことが大切。どんな仕事でも一生懸命やれば感謝されるし、達成感が出ることが分かったので、大変なことでも最後までやることを心がけていきたい。」などの感想をいただきました。

猛禽類のゲージ清掃

水槽をデッキブラシで清掃

§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成 27 年 8 月 1 日～11 月 30 日までの収容数は、鳥類 68 種 183 羽、獣類 2 種 3 頭で、昨年度の同時期（鳥類 182 羽、獣類 4 頭）とほぼ同様の数値であった。

平成27年度　8月～11月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数	収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数
（鳥類）								36	カワセミ		3	2		1	0
1	キジ		3	1		2	0	37	チョウゲンボウ		1	1			0
2	コハクチョウ		11	3		7	1	38	モズ	3	1			4	0
3	オオハクチョウ	2	1			2	1	39	オナガ		1			1	0
	マガモ	2		1			1		ハシボソガラス	1					1
4	カルガモ	1	5			5	1	40	キクイタダキ		2	2			0
5	コガモ		1	1			0	41	ツバメ	2	6	1		7	0
6	カイツブリ		1			1	0	42	ヒヨドリ		4	1		3	0
7	カンムリカイツブリ		1			1	0	43	ウグイス		10	4		6	0
8	キジバト		9	2		5	2	44	ヤブサメ		4	1		3	0
9	アオバト		1	1			0	45	メボソムシクイ		10	3		7	0
10	オオミズナギドリ		9	2		7	0	46	エゾムシクイ		1			1	0
11	ゴイサギ		1	1			0	47	センダイムシクイ		2	2			0
12	アマサギ	1	1			1	1	48	メジロ		1	1			0
13	アオサギ	1	2	1		2	0	49	シマセンニュウ		1			1	0
14	ダイサギ	1	1			1	1	50	オオヨシキリ		2			2	0
15	チュウサギ		1			1	0	51	ムクドリ		5	3		2	0
16	コサギ		1			1	0	52	コムクドリ		1			1	0
17	バン		2	1		1	0	53	クロツグミ		1			1	0
18	オオバン		2			2	0	54	マミチャジナイ		1	1			0
19	ツツドリ		9	3		6	0	55	シロハラ		4	2		2	0
20	カッコウ		1	1			0	56	ノゴマ		1			1	0
21	ヨタカ		2			2	0	57	キビタキ		2	1		1	0
22	ヤマシギ		3	1		2	0	58	ニュウナイスズメ		1	1			0
23	アオシギ		1			1	0	59	スズメ		7	2		5	0
24	ウミネコ		3	1		1	1	60	キセキレイ		1	1			0
	セグロカモメ	1					1	61	ハクセキレイ		1	1			0
	オオセグロカモメ	1					1	62	カワラヒワ	1	3	2		2	0
25	ミサゴ	1	3	2		2	0	63	マヒワ		1			1	0
26	トビ	4	2	2		1	3	64	ベニマシコ		1			1	0
27	ツミ		1			1	0	65	アオジ		2	1		1	0
28	オオタカ		4	1		3	0	66	オオジュリン		2			2	0
29	ノスリ	1	2	1		1	1	67	ドバト	2	6	3		5	0
	クマタカ	1					1	68	レースバト		2		2		0
30	オオコノハズク		1			1	0	小計		26	183	65	2	125	17
31	コノハズク		1	1			0								
32	フクロウ		1			1	0	（獣類）							
33	アオバズク		2	1		1	0	1	アブラコウモリ		1			1	0
34	トラフズク		1	1			0	2	ハクビシン		2			2	0
35	アカショウビン		2			2	0	小計		0	3	0	0	3	0
								合計		26	186	65	2	128	17

＜特記事項＞

・ニュウナイスズメ

平成 27 年 8 月 5 日新潟市北区松浜地内の住宅玄関先で保護され、8 月 7 日センターに収容された。衝突による脳震盪と判断し、安静（置き餌）においたところ、8 月 8 日回復（体重増量）し放鳥した。

収容時の体重：14.8g

この個体は、センター初記録。

＜その他＞

・オオジュリン　2 羽　3～4 例目（平成 2、8 年）

・アオシギ　6 例目（平成 5、6、8、9、22 年）

§ 8～11 月の探鳥会・観察会 §

① 8/30（日）シギ・チドリ観察会 8:00～9:35（雨）
場所：網代浜　参加者:15 名　　観察種：17 種

防波堤にイソシギが見られ、テトラポットにはウミネコとオオセグロカモメがとまっていました。砂浜では、海面に飛び込むミサゴや波打ち際で採食しているソリハシシギを 2 羽観察しました。あいにくの雨もあり多くの野鳥は見られませんでした。

雨の観察会になりました

耳を澄まして虫の音を聞きます

9/5（日）マツムシの声を楽しむ会 18:00～19:55（曇り）
場所：紫雲寺記念公園　参加者：14 名　観察種：16 種

愛鳥センターレクチャールームで簡単な説明を聞き観察会をスタート。センター駐車場草地でカネタタキや数種類のコオロギの仲間の鳴き声を聞きました。道路を渡りさらに散策していくと、徐々に暗くなりいよいよ本命のマツムシやスズムシ、アオマツムシ、カンタンなどの鳴き声を聞くことができました。本命の姿は確認できませんでしたが、ウマオイを捕まえたり、アゲハチョウの休眠している姿を見ることができました。

② 9/20（日）タカのわたりを見る会 10:00～12:00（曇り時々雨）
場所：剣龍峡　参加者：28 名　観察種：13 種

まず、北東からハチクマ 1 羽が登場し、旋回した後、南西方向へ飛んで行きました。その後も、ぽつりぽつりとハチクマが現れ、たまにサシバやツミ、ノスリが通過していきました。滞在時間は短かったですが、20 羽以上のタカの渡りを見ることができました。

ハチクマが飛んで行きます

コガモを観察しました（参考写真）

③ 10/25（日）秋の渡りを見る会 8:00～10:00（曇り）
場所：福島潟 参加者:16 名 観察種：36 種

最初に観察したのは駐車場から見える田んぼにいたハクチョウの群れでした。餌をついばむコハクチョウの中に 1 羽だけオオハクチョウが混じっていました。福島潟放水路ではたくさんのコガモやカルガモを観察することができました。潟へ進んでいくとコガモやカワウが気持ちよさそうに日向ぼっこしています。まだ夏羽のカンムリカイツブリも見ることができました。

④ 11/8（日）冬の初心者探鳥会 8:00～9:30（雨）
場所：瓢湖　参加者：7 名　観察種：21 種

あいにくの雨という天候の中でしたが、かえって餌場となる田んぼに飛び立つハクチョウが少なかったようで、瓢湖にはまだ数多くのハクチョウが残っていました。９：００の餌付けタイムでは、間近でヒドリガモやオナガガモ、キンクロハジロなどのカモ類を観察できました。餌を食べ満足そうに羽づくろいするアメリカヒドリも見ることができました。

アメリカヒドリとオナガガモ

探鳥会の観察種

No	種名	①	②	③	④
1	マガン			●	
2	コハクチョウ			●	●
3	オオハクチョウ			●	●
4	オカヨシガモ			●	
5	ヒドリガモ			●	●
6	アメリカヒドリ				●
7	マガモ			●	●
8	カルガモ			●	●
9	ハシビロガモ			●	●
10	オナガガモ			●	●
11	コガモ			●	●
12	ホシハジロ			●	●
13	メジロガモ				●
14	キンクロハジロ			●	●
15	カイツブリ			●	
16	カンムリカイツブリ			●	
17	キジバト	●		●	
18	カワウ			●	●
19	ウミウ	●			
20	アオサギ			●	
21	ダイサギ			●	
22	コサギ	●			
23	バン			●	
24	オオバン			●	●
25	ソリハシシギ	●			
26	イソシギ	●			
27	トウネン	●			
28	ユリカモメ			●	
29	ウミネコ	●			
30	オオセグロカモメ	●			

No	種名	①	②	③	④
31	ミサゴ	●		●	
32	ハチクマ		●		
33	トビ	●		●	●
34	チュウヒ			●	
35	ツミ		●		
36	オオタカ			●	
37	サシバ		●		
38	ノスリ		●		
39	アオゲラ		●		
40	ハヤブサ			●	
41	モズ			●	
42	カケス		●		
43	ハシボソガラス	●		●	●
44	ハシブトガラス	●	●	●	●
45	ヤマガラ		●		
46	ツバメ	●			
47	ヒヨドリ		●	●	
48	メジロ		●		
49	ムクドリ			●	●
50	オオルリ		●		
51	ニュウナイスズメ			●	
52	スズメ	●	●		●
53	ハクセキレイ	●		●	
54	セグロセキレイ				●
55	カワラヒワ	●		●	
56	ホオジロ	●	●		●
57	アオジ			●	
58	オオジュリン			●	
	計	17	13	36	21

2015 年 8 月 6 日
鳥たちは繁殖期が終わると、羽毛が生え換わる「換羽」を行います。
最近、その抜け落ちた羽が探鳥路に落ちていることがあります。
さて、写真は誰の羽でしょう？
正解はハシボソガラスです。
身近なハシボソガラス、ハシブトガラスは、
体の羽でも見分けることができます。
羽の根元が白いとハシボソガラス、灰色だとハシブトガラスです。

誰の羽でしょう？

2015 年 9 月 9 日
愛鳥センターのまわりでキノコがたくさん見られるようになりました。
10 分程散策してみただけで、12 種類以上のキノコに出会うことができました。
白いもの、黒いもの、地面から出ているもの、朽ち木から出ているもの、たくさんあります。
ほとんどが毒キノコですので、触ったら手をしっかり洗ってくださいね。

キノコがたくさん出ました！

～ 愛鳥ブログやってます！ ～

今年度の春から愛鳥センターのホームページでブログを掲載中です。
公園の野鳥や自然にまつわることなど日々の情報をお知らせしています。

ここでは秋の記事の一部を紹介します！　　**ホームページへ→**

2015 年 9 月 19 日
池の周辺では、ミズヒキのつぼみが目立つようになってきました。
花はとても小さいのですが、よ～く見ると花びらの色合いがちょっとおしゃれです。
上側 3 枚は赤く、下側 1 枚は白色をしています。
この紅白の色合いを水引（ご祝儀袋に飾りで付ける紅白の帯紐）に例えて名前が付けられました。
ミズヒキを見つけたら、是非近くで花を見てみて下さいね。

ミズヒキの花

§ 平成 28 年度愛鳥週間用 ポスター原画募集新潟県大会 §

平成 28 年度愛鳥週間用ポスター原画募集新潟県大会の審査会を平成 27 年 9 月 9 日に愛鳥センターで行いました。このポスター原画募集は制作過程を通じて野生鳥獣保護思想の高揚を図る目的で県内の愛鳥モデル校より毎年募集しているもので、今年度は小学校から 303 点（12 校）、中学校から 37 点(2 校)合計 340 点の応募がありました。（審査結果は表のとおりです）

今年度の特徴は、子どもたちと野鳥との関わりが感じられるような作品が増えました。また、活動の中で実際に見た場面、野鳥を描いている作品も見られ、自分なりに野鳥を自由に描いている作品が増えました。

小学校の部では、鳥の特徴がしっかり描かれており、ヒナの表情やうぶ毛もよく描けていた新潟市立浜浦小学校 6 年皆川周成さんの作品が、中学生の部では、全体の色使いがよく、優しい印象の作品に仕上げた五泉市立愛宕中学校 2 年渡部柚佳さんの作品がそれぞれ金賞を受賞しました。金賞・銀賞の作品は公益財団法人日本鳥類保護連盟による全国大会へ応募しました。

〈審査結果表〉

賞	小学校の部	中学校の部
金賞	皆川周成　(浜浦小 6 年)	渡部柚佳　(愛宕中 2 年)
銀賞	市川真央　(春日小 4 年) 新橋鼓太朗 (青山小 3 年)	田中　花　(愛宕中 3 年) 周佐茉奈実 (愛宕中 2 年)
銅賞	佐藤比路　(中条小 5 年) 武藤花奈　(中条小 5 年) 丸山巧真　(浜浦小 3 年)	

8～11 月の来館者数

月	8 月	9 月	10 月	11 月	計	累計
来館者数	833	1, 122	985	609	3, 549	586, 770

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 27 年 9 月～平成 27 年 12 月 **1, 831 円**

累計 **256, 069 円**

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。
今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前 9 時～午後 4 時
休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

小学校の部「金賞」
皆川周成さん（浜浦小 6 年）

中学校の部「金賞」
渡部柚佳さん（愛宕中 2 年）

§ 全国大会結果報告 §

全国大会「入選」
市川真央さん(春日小 4 年)

平成 28 年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール全国大会では、小学生の部で銀賞を受賞した市川真央さん（上越市立春日小学校 4 年生）の作品が入選しました。

また、平成 27 年度野生生物保護実績発表大会新潟県大会において金賞を受賞し、全国大会へ推薦した上越市立春日小学校については、一次書類審査を通過することができず、残念ながら全国大会へ出場することはできませんでした。

3 月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

ハクチョウを見送る会（お幕場大池駐車場集合）
3/13（日）　8:00～10:00

講演会ほか（申込みが必要です）

新潟県野鳥保護の集い（瓢湖）
2/14（日）　10:00～15:00
内容：午前は瓢湖で探鳥会、午後は阿賀野市福祉会館で野鳥保護の集い（講演会等）
申込・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500
申込締切：2 月 6 日(土)まで
参加費：無料　/　定員：100 名（先着）
対象：小学校高学年以上

愛鳥学習会（県立生涯学習推進センター）
3/6（日）　13:30～15:00
内容：初心者を対象に野鳥観察の楽しみ方を学習します。
講師：日本野鳥の会　荒　哲平　氏
にいがた野鳥の会　出口翔大　氏
※愛鳥学習会は申込が必要
申込・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500
申込締切：2 月 28 日（日）まで
参加費：無料　/　定員 80 名（先着）